

新宿区民会議 第6分科会

第2回会議 《平成17年7月9日及び16日》

～グループワークでの各班の意見～

1 班

地域安全

●現状

- ・ 安全パトロールの仕組みがない（大久保の話だが）。
- ・ 地元をパトロールする警察官が少ない気がする（戸山公園周辺）。
- ・ カラスの被害は減らない。

●解決

- ・ 脱法ドラッグの規制をさらに厳しくして欲しい。
- ・ 「ブロークン・ザ・ウィンドウ」にみる犯罪の防止について。
- ・ 地震発生時の行動指針を作る。学校の役割。
- ・ 学生の中には地域参加ニーズが有るので、もっと地域がアプローチすべき。
- ・ 「災害弱者」へのフォローをどうするか？

●将来像

- ・ 子供の荒廃＝目をかける他人がいないこと？ 誰かがイニシアティブを取らないと。

多文化共生

●現状

- ・ 大久保の韓国人街、近くにあるのに交流の機会がない（交流したい願望あり）。
- ・ 伝統文化の保存、歴史的建造物の保存はどうなっているのか？

●解決

- ・ 公共施設の空きスペース・利用されていない建物等の有効利用。

●将来像

- ・ 「外国人」を「外人」として扱わないコミュニティづくり。

コミュニティ

●現状

- ・ 会う必然性がない→話し合わない。お互い話し合う気がない。（大学生）
- ・ 商店・学校（小中高大）・住民・行政組織がバラバラかつ理解の土壌なし。
- ・ 居住者個々は互いに知られていない。
- ・ 若者（一人暮らし）は誘ってもらえないと参加できない。町イベントに入りにくい。
- ・ 商店街のイベントにアルバイトを使っている。
- ・ 子供が少ないので、子育てサークルがどこにあるのか不明。
- ・ 自治会活動への参加者が少ない。

●解決策

- ・ 「お先へどうぞ」自未得度先度他の実践。
- ・ 商店街の中の人間ネットワークをどう作るか？
- ・ 中・高年の居場所づくり。高齢者も生産者となるしくみづくり。

●将来像

- ・ 小学校区コミュニティは実現しないか？やる気に見えるが。（戸塚三、鶴巻）
- ・ 「コミュニティ・スクール」として学校を位置づけるためには？
- ・ 地域通貨？？LETS・・・助け合い アトム・・・消費を媒介としたゆるいネットワーク。

協働・参画

●現状

- ・ ボランティア活動の需要供給のマッチング。
- ・ 行政と区民と地域内事業所との協力関係が希薄。
- ・ 議会制民主主義の補完 直接民主主義も視野に？
- ・ 非参加者の取り扱いをどうしていくのか？
- ・ 協働・参画・参加の哲学ができていない。
- ・ どのような参画・協働・企画・計画・予算・実施・評価。

●解決

- ・ NPO が企画・主催したイベントに対して行政がどんな援助が出来るか？
- ・ 議員の活動が見えない。
- ・ 区民の意識 ex 投票率、傍聴。

●将来像

- ・ 自治を育む、新しい自治を作る。
- ・ 柔軟な組織

自治制度

●現状

- ・ 町会の高齢化
- ・ 「権利」意識低い→「義務」「責任」意識低い→帰属意識低い

●解決

- ・ まずはいかに区民を席に着かせるか？

2 班

地域安全

- ・ わが町の防犯体制はどうなっているのか。
- ・ 町をどうやって守るか。
- ・ 若い人たちに関心を持ってもらうにはどうすればよいか。
- ・ 防災問題
- ・ ごみ問題、不法投棄
- ・ 町の安全、自警組織
- ・ 道路不正使用
- ・ 街並み条例をつくる（美化）
- ・ 電線を地中にうめる（美化）

多文化共生

- ・ 古い（明治・大正・昭和）の暮らしの発掘、活用。
- ・ 地域の神社を地域民のための組織に変える。
- ・ 専門（商売）でなく、民衆の伝統芸能の復活。
- ・ 外国人との共生社会の対応。
- ・ 少子化問題で外国人に世話になる時代が来る。
- ・ 青少年育成、東アジア人、教育。
- ・ 「多文化共生センター」のコンセプト作りに参加する。
- ・ 日本のルールを守らない外国人問題。

コミュニティ

- ・ 町名変更は嫌だ（旧町名に戻して欲しい）。
- ・ 町内会と活動状況が分からない。
- ・ 外国の皆さんとどうやって共生するのか。
- ・ 暗くなった後の銀行の周辺は活気がない。
- ・ 時代に即した市民組織を見直しする。
- ・ 新しい井戸端会議を育てる。
- ・ 町内会制度のあり方 人口減少により維持が難しい。NPO との違い。
- ・ 地域団体について根本的見直し。参加・運営・組織。

協働・参画

- ・ 協働とは誰とするのか、どうやってするのか。
- ・ 新住民と元々の住民の問題
- ・ 近隣とのつきあいが少なくなった。
- ・ 町内会任せだ。
- ・ あまり活動していない。
- ・ 新宿区の男女共同参画の実態が分からない。
- ・ 民生委員の公募制実施。
- ・ 行政の周りのいろんなイベントの敷居を低くする。
- ・ 協働・参画についての区民の意識改革。
- ・ 協働・参画についての行政の意識改革。

自治制度

- ・ 赤字に悩む新宿区財政は区議会議員の削減。
- ・ 自治基本条例を作る。
- ・ 自治基本条例 区長・議会・市民の自治に関する基本的な権利・義務・責任を明確にする。

3 班

地域安全

- ・ 道路の整備 自動車の通路
- ・ 非常に匿名性の強い都市において、地域防災とはどういうことか。
- ・ ガードレール内のオートバイ駐車。
- ・ 個人情報保護法を知りたい。肖像権の内容を知りたい。
- ・ 自転車置場 マンション前 新聞販売店前
- ・ 明るい商店街

多文化共生

- ・ 外国人がどこに住んでいるか？地域マップ的？
- ・ 外国人に対する日本人の対応はどうか。
- ・ 外国人の文化の違いがわからない。
- ・ 外国人の日常生活で、日本語の学習をどう考えて、どのように受けているか。
- ・ どんどん外国籍住民の増えている大久保・百人町は、このままいくと将来どうなるのだろうか。

コミュニティ

- ・ 地域に住んでいる人たちのコミュニケーション。
- ・ 定住者（ずっと住んでいる住民）と一時的な住民が混在する街で、どんなコミュニティが考えられるのか。
- ・ 集会場所の確保。
- ・ コミュニティ活動の活性化。
- ・ 地域での問題点が公の場所で把握・理解がない。情報データベースがない。

協働・参画

- ・ 「協働・参画」とは底流にボランティアがあるのでしょうか。
- ・ 「協働」について失業と関連して「仕事」をつくる方向にしていくことはできないでしょうか。
- ・ 「協働・参画」は生活にゆとりのある人々でないと参加できないように思いますがどうでしょうか。
- ・ 役所の職員が5年以内に移動すると、それまでの決まりそうなことが始めからやり直しになる。それを止めてもらいたい。
- ・ 学生・若者の活力をどのように活かすか。

自治制度

- ・ 自治制度の充実にどの程度かかわれるのでしょうか？安全・安心の新宿にする上で大事なことと考えますので。
- ・ 町会とはマンション住民の連帯感。
- ・ 生活上の相談の窓口はあっても、解決場所がない。区民と行政との連携のシステム作り。苦言の伝達方法。
- ・ 地域における町会とは？
- ・ 新宿区内に上水道、下水道が施設されていない所がある。
- ・ 新宿区内の私道を調査したことがあるか？

4 班

地域安全

- ・ 子供が元気に育つ環境作り
- ・ 犯罪を防ぐコミュニティ作り
- ・ 防災外に強い街
- 必要なこと
 - ・ 新宿区・・・犯罪の多い街のイメージを払拭する。
 - ・ 街の美化
 - ・ 安全のためのコミュニティを持続させるシステムの提案

多文化共生

- 課題として認識
 - ・ 多文化共生は新宿区ならではの重要な課題。
- そのために必要な知識と啓発
 - ・ 外国人の生活実態をどこまで出来るか？
 - ・ 「多文化共生」は宗教問題が絡む。特に伝統文化とは宗教のあり方が根源にある。
 - ・ 異なるバックグラウンドを持つ人々を受け入れる心の準備・強化
- 区から都へ
 - ・ 知事発言は問題

コミュニティ

- ・ 地域の安全は「パトロール」ではなく「コミュニティづくり」から始まるはず。
- ・ 地縁型コミュニティとテーマ型の連携。
- ・ コミュニティの最小単位は家族あるいは個人。意見のくみ上げには民主主義が重要。
- ・ 団塊世代が地域で暮らしていくための支援が必要。コミュニティをつくる大きな力となるように。
- ・ 「隣組」イメージは古いが、最小規模の地域住民組織で今日的な意味を持つ。
- ・ 町会と不参加住民。区議と住民。人間的にのびのびとした生活。平和な日々だが戦争貧困が世界で起きていることをお互いが語り合えない社会になっている。
- ・ マンション住民を自治会に賛同させる。
- ・ 基本収入が少なくなっている時代。若い人が住める住宅費を。
- ・ 町会の行事に参加して、近所の人とのコミュニティーの場を。
- ・ 伝統行事を後世に伝えるためのイベントをもっと増やしてもらいたい。
- ・ 世代交流の出来る場所作り。あるいは魅力的なイベントをもっと増やしてほしい。
- ・ 空き教室の公共施設の利用法。
- ・ 気配り、思いやり。
- ・ 介護をポジティブに語る仲間作り。家庭内にこもりやすいことが多いので。
- ・ まず近所同士のあいさつ交換が大切。
- ・ ボランティア 奉仕の精神、見返りもとめない。
- ・ 声にならない声のくみ上げ。

協働・参画

- ・ 参加から参画を保障していく仕組みづくり。
- ・ 社会の片隅に生きる弱い立場の人の意見反映という参画。幼児をもつ母親たち。
- ・ 弱い人が「力」を合わせてものごとにとりくむ。個人の力が大切。
- ・ 地域で職探しができるためのネットワーク（情報提供）
- ・ 区議、各協議会、審議会、区民会議→組織の重複と調整。区役所内組織の重複と調整→責任の所在。
- ・ 新宿では市民と行政との協力を進めるためのガイドラインは出来ていますか？
- ・ NPO 支援する制度や環境作り（センター）
- ・ 幼保統合によるハードソフト面の整備をもっと進めて欲しい。

●まとめ

- ・ 「協働」をするためのガイドラインの作成。
- ・ 協働・参画への仕組みづくり・ネットづくり。
- ・ 幼稚園・保育園の結合によるハードの整備。

自治制度

- ・ 魅力的な学校づくり。地域の小学校など差別化が明確ではないので。
- ・ 区全体の自治制度（しくみ）と地域（どのくらいの範囲かはわかりませんが）の自治制度（しくみ）
- ・ 行政をサポートする意味で知恵と労力を集めるしくみ。金は税金を払っているの。
- ・ 公平・公正でしがらみのない区政
- ・ 業者や団体との利害関係無縁で清潔なイメージ。
- ・ 行政の事業評価について
- ・ 職員教育（心構え、心配り、心意気）
- ・ 現場主義
- ・ 昼間の渋滞解消 大久保、新目白通り等、平日の昼間交通渋滞がみられるが、道路増大や、車利用の減少など促して解消できれば・・・。

●まとめ

- ・ 区全体の自治制度と地域の自治制度の結合（公正・公平）。
- ・ 学校（先生も含む）制度の確立。
- ・ 区民意見のくみ上げ（現場の声、交通問題も含む）。

5 班

地域安全

- ・ 不在交番の問題
- ・ 情報交換
- ・ どこに誰がいるかを地域で共有すること。
- ・ 昼間パトロールを行っていますが、犯罪を防ぐにはよく見分けないとわからないのが現状です。
- ・ うちの町は犯罪防止に標語を書き町に貼っている。

まとめ

- ・ どこに誰がいるかを地域と共同にて確認する。

多文化共生

- ・ 異文化への理解、平等が第一。
- ・ ルールを外国人に知らせる「仕組み」を作る。
- ・ 違いを認め合うこと。
- ・ 異文化理解
- ・ 「郷に入りては郷に従う。」
- ・ あいさつをする

●まとめ

- ・ 多くの外国人と挨拶する。

コミュニティ

- ・ 安全が地域で実感できるようになりたい。
- ・ 顧客サービスと勤務時間の変更。
- ・ 地域ごとのルールが必要。
- ・ 若い人が町の活動に参加しない。
- ・ 対話（顔を合わせて話し合うこと）
- ・ 介護、子育て。

●まとめ

- ・ 融合活動
- ・ お互いに話し合いをし、互いの交流につなげる。
- ・ 町会の機能を果たしているか。

協働・参画

- ・ 男女共同参画がまだ生きていない。もっと PR を。
- ・ 区民の参画が一部に偏らないよう、重複を少なくしたい。
- ・ 協働→いいから一緒に行動する 参画→面白そうだから一緒に考えてみる。
個から社会へ でも音頭とるのではなくみんなが納得すること。
- ・ 楽しく参加できるシステム作り
- ・ 公園はどここの公園も同じでその地域にあった価値ある公園にしたい。敬老公園。
- ・ 協働とボランティアの違いが分からない。
- ・ 運営費用をどこから出す。
- ・ 協働・参画のモデル公園を作る。

●まとめ

- ・ 地域にあった公園作り（年齢問わず参加できる）、価値観のある公園、運営費の問題

自治制度

- ・ 新宿区民協議会でこのような活動をすれば区議会議員はいらない。
- ・ 議員の年金やめろ。
- ・ 現在の町会現職は商売人の集まりだから商売第一で進んでいる。政策必要。
- ・ 役所・議員をチェックする。
- ・ 区議は地域を代表する人であるか？
- ・ 行政職員の意識がだいぶ変わってきてうれしいが、末端まで届くよう努力してもらいたい。
- ・ 議員の活動のあり方がわかり易くなること。
- ・ 区議が区民の地域のことを考える人であること。
- ・ 会合を重ねるうちにお金がかかる。区で補助金を出してもらいたい。

●まとめ

- ・ 地域から区、都、国へと進めていく。議員の年金はやめる。

6 班

地域安全

- ・ 日中家に居ないので隣近所のことがあまりよくわからない。
- ・ 災害のときどうする？

多文化共生

- ・ 外国人のお友達が淋しそうにしている。言葉や習慣の違いで自分の気持ちがうまく伝えられないようです。
- ・ 10年後の新宿（外国人参加による活性化される町のモデル）
- ・ 多文化共生プラザは何をすること？
- ・ 外国系住民と共同で街づくり。
- ・ 区内に住むそれぞれの違った文化を持った人たちがどうやったらお互いに安全かつよく生活していけるか。
- ・ 新宿の特徴である外国人との共生をいかに進めるか→将来の日本

コミュニティ

- ・ 異なった（違った）人たちとわかりあうには、もっと相手の言葉を理解（わかること）であると思います。ではその方法は？例えば文化の発表会など。
- ・ 地域団体のネットワーク化。
- ・ コミュニティは誰のものか？
- ・ 外国人ネットワーク作りに行政が支援して欲しい。（例えば中国人、タイ人など多くのネットワークが必要）
- ・ 青少年会議？こども会議 10年後 20年後の新宿を担う子供たちを地域でどう育てていくか。
- ・ 日本人と外国人が共に会議など議論する場があればと思います。
- ・ 行政と住民のコミュニティの見える化。
- ・ 外国人のボランティアを育成して欲しいです。

協働・参画

- ・ 費用の住民負担による財政建て直し。
- ・ 違った国の人が望むなら共に働ける職場の提供。
- ・ 参加の仕組みづくり
- ・ どうやるの？

自治制度

- ・ 町内会の再生→苦手の参加
- ・ 町会に入っているが、誰もが気軽に意見を出し合う場とは見えないのですが…。
- ・ 「外国人会議」など設置し区政に参加させてください。「区政に外国人の声を」
- ・ 区内の違った文化を持った人々ところら側の把握。
- ・ 自治制度の決定に外国人も「住民投票」参加が出来るようにしてください。

7班

地域安全

- ・ 防犯等についての関心が日本人のみ（考えているとは思いますが？周知が不足？）
- ・ 町の中には、生活をしていくために、会社に勤めなければならない。外に（区外）に出てしまい地域に対しての考えが薄い問題。
- ・ 一人暮らしの老人が自分の癒しのために、ネコ、イヌ、ハトにエサをやり、人の迷惑を顧みない。
- ・ ハトにエサ いやされる場がないからか。触れ合う姿。人の心すさんでいるからか。
- ・ 高齢社会、少子化、核家族化、急速に進行。声を掛け合い、支えあえる仕組みが必要。
- ・ 高齢社会は誰もが障害を持つようになる。目が見えにくい、聞こえにくい、手足が不自由。外出・移動が安心・安全にできる街づくり。ユニバーサルデザイン。
- ・ 小さな生命の大切さ。長年社会を支えてきた高齢者の一人一人の生命の大切さを伝えていくには。
- ・ 私たちは、地域安全ということで、日、祝、パトロールをして、防犯に対して安全を図っている。
- ・ パトロール ボランティアはただでいいのか。行政責任も考えて。
- ・ 地域安全の担い手は老人と主婦と商店主。
- ・ 多くのフリーライダー
- ・ 放置自転車、バイクなどの取り締まり。
- ・ 電柱に地下化を推進する。10年後には。
- ・ 地域安全等として街灯の??

多文化共生

- ・ 多文化共生により自由よいが、暮らしも風習も違うことにより困りごとが起きる。
- ・ 多文化共生のスローガンはあっても中身が不十分。
- ・ 多文化共生について職員には知識が少なすぎる。
- ・ 異文化についての具体的な紹介等の場がない。気軽に行くことができる。
- ・ 外国人との付き合い方 風呂、文化（頭をなでることがいけないこと）→知る場所
- ・ モラル
- ・ 外国人は町内会を知らない

コミュニティ

- ・ ルールについての考えに差がある。（例えば歩行、ゴミ、騒音等）
- ・ コミュニティの担い手は老人。
- ・ 高齢化対策は、年寄りを遊ばせることではない（地域問題に??）
- ・ 60歳4枚の入浴券 コミュニティ作りに必要 大切な人もいるかも ※行政施策としてはよいのか。
- ・ 年齢、性別、国籍、身体状況の違いを超えて互いを尊重しあえるノーマライゼーションの考え方を基本に。（共生）率直なコミュニケーション。
- ・ 全体を見る練習 個＝全体 折り合いをつける練習。

協働・参画

- ・ 「協働で」という修飾語はわざとらしくて気持ち悪い。
例：公園の掃除を行いました。
公園の掃除を協働で行いました。
- ・ 外国人 資格、金額等の問題があるかもしれないが（日本人も同じ？）協調しようかとの意志があまり見られない。
- ・ 企業、行政、各団体、地域住民全て、一人の人間（生活者）としてを基本に。
- ・ 「してあげる」「してもらう」ではない。企業、行政、地域住民も、自分の問題として捉えていく姿勢→一緒にする意識
- ・ コスト負担 行政経費を削って市民協働経費へ
- ・ 協働の持つ嫌らしさ 行政に使われるのは変 付き合い方は？
- ・ シャドウワーク化する参画
- ・ 無能職員→有給 有能区民→無給

自治制度

- ・ 小さい地方自治と地域コミュニティへの地方自治サービスの省略。
- ・ 地域コミュニティとしての町会のスタンダード化。
- ・ 社会教育会館等の運営を地域コミュニティに任せる。老人も認識できる。
- ・ マンション経営しくみ
- ・ 回覧板
- ・ 連絡網
- ・ 廃止となった理由 回覧板が止まる→掲示板地域ごとの責任で自己責任で情報把握する。
- ・ 町会の造営のスタンダード化が規制にならないよう。
- ・ スタンダード化された地域コミュニティとしての町会へのいわゆる行政サービスの委嘱。例えば、駐車取締り、放置自転車の整理。
- ・ タバコのポイ捨て問題であるが、8月1日より、歩きタバコはいけないこととなりましたが、もっと罰則を！
- ・ 「してあげる」「してもらう」ではなく、一人一人が自立し、自己責任を負えるような、おってあたりまえの気づき。
- ・ 町会のあり方
- ・ 歩きタバコ ポイ捨て 行政、強制？モラル？ 歌舞伎町を持つ新宿区 タバコよりディーゼル 吸いたい面も

8 班

地域安全

- ・ 安全第一ではあるが居住者にとっても納得できる取締りを。(特にオーバーステイ)
- ・ 子供、一人暮らし 情報収集とプライバシー 監視カメラとプライバシー
- ・ コミュニケーション 新住民と旧住民の関係作り 現在の町会組織ほどの程度機能しているのか?
- ・ 地域としての(住民同士の)コミュニケーションがとられているのかどうか。
- ・ 「防犯」というより「安心して暮らせる仕組み」づくり
- ・ 災害時緊急時に対応できるネットワーク作り(日本人、外国人)
- ・ 歌舞伎町が人為的行政的につくられたものであることを改革したい。
- ・ 警視庁統計による犯罪多発地域の中にある用心の必要。
- ・ 「安心して暮らせる仕組み」から町の犯罪も減少。

●まとめ

- ・ コミュニケーションが必要
地域安全、旧来の町会と新たな居住者
↓
仕組みづくり、声かけ=安全な街、コミュニティ
- ・ 危険情報 知らされているが・・・。伝え方
- ・ 避難場所=どうやって伝えますか?
外国人への情報伝達の仕組み、ネットワーク
- ・ 取締りの方法これでいいのか?
↓
オーバーステイ、万引き、無規制→不安定さ→安全な暮らしを作る←根本問題

多文化共生

- ・ 区全体テーマとしては難しい。
- ・ 新宿は多文化共生のモデルタウンとなるべき。
- ・ 外国の人にも生活者としての義務を負担して欲しい。
- ・ 町会・商店会が共生に機能していない。
- ・ 否定するのではなく肯定 多文化を個性として発展。
- ・ 新宿区の女性の「数字」はよくない。とくに外国人女性の現状を憂い、共生への道を探りたい。
- ・ 文化の違いを認める努力を互いにしなければ共生は出来ない。
- ・ ルールを守るといふことと他者を認めることの違い。
- ・ 10年後 例えば今のロンドンのようになることへの不安。そのために移民を増やす傾向にある我が国への不満、如何なものか。文化の違いになるギャップをどの様にうめていくか。
- ・ 「ホームレス」路上対策、公園対策ではなく「地域づくり、まちづくり」
- ・ 地域での文化、スポーツ活動を通じ、世代、国、職業を理解できる場を作っていきたい。

- ・ 日本人対外国人ではなく、日本人対〇〇人、〇〇人と△△人というような交流が出来ればよい。

●まとめ

- ・ ルールを守るとは？→説明する努力が必要
→同化とは別
- ・ プラスのイメージとしてとらえたい。
- ・ 新宿の個性としてとらえたい。
- ・ 各地域ごとの違いを認めていく。
- ・ 日本人対外国人ではない。外国人、外国人ネットワーク
- ・ 小手先でなく、根本として理解する。(女性問題から考えると)
- ・ 具体的なことを通じた理解(スポーツなど) ふれあい、挨拶

コミュニティ

- ・ 地域の情報については、町会中心で若者までなかなか伝わってこない。
- ・ 学校と地域のつながりはどうなるの？
- ・ 「くらし」のテーマに応じた多層なつながり。
- ・ 「既存地域組織」の衰退と「地域的匿名性」の中に生じる「くらし」がどうつながるか。
- ・ 既存の「地域社会」からこぼれ落ちた「くらし」が生きていけるための「人権」→市民活動
- ・ すぐ近所に住みながら道であっても分からない。→町内会等小地域単位での日常的な連携ができないか？
- ・ 会社を退職した人を迎える。??
- ・ 新宿区は都市の縮図。住宅街から性産業、軍事まである。その中で真のコミュニティが形成できるのか。この会が一步であるとは思う。
- ・ 地域住民が地域で利用できる公、民の場が欲しい。
- ・ 住み続けられる新宿の街にするために行政の出来ること、住民自身ができることを学びたい。

●まとめ

- ・ 町会の機能は？
- ・ 学校と地域とのつながりは？(学区域のとりはずし コミュニティがなくなる面)
- ・ 既存の仕組み、新しい仕組み→どうするか？
- ・ 地域に関わってきた人たちの経験を活かす
- ・ 退職した人の力を活かす。

協働・参画

- ・ 行政がそのような機会を出来るだけ多く作る。
- ・ 日本社会の特質、官尊民卑と男尊女卑の中で真の協働参画構築はどう可能なのか。行政側の改革がまず大切である。
- ・ 行政ではやりづらい問題 ex ホームレス、外国人は民間との協働がいいと思う。
- ・ 「行政」対「民間」だけの軸ではない広いネットワーク。

- ・ 協働・参画といっても何かというと条例で決まっているということへの不満。
- ・ 地域の再開発はほとんどの住民が詳しく知らないうちに進んでいる印象がある。これはまずいと思う。住民参加を求める。
- ・ 「プラットフォーム」づくり。
- ・ 異なる立場のものが「つながる」なかで生まれる「新しい価値」
- ・ 「町の活動者」が魅力あるメッセージを持ち寄り、「まちづくり」としてのメッセージとして発信する場。
- ・ 「暮らし」のメッセージが集まる場であり「発信の場」

●まとめ

- ・ 協働は民間へのアウトソーシングか？
↓
- ・ 新しいつながりを作ること。(女性の人権ネットワークなど)
↓
- ・ コミュニティーのつながりのありよる
- ・ 協働というか・・・地域社会の力 受けては同じ。同じ数の同じ人が集まる。

自治制度

- ・ 新宿は、商業エリア、居住エリアがあり、各テーマを統一の内容で捉えるのは難しい。
- ・ 町内会依存ではない自治制度をどのように作れるのか。
- ・ 総論賛成、各論反対 地域エゴ
- ・ 地域の文化、スポーツ等のサークルの育成を区としてどう考えるか。
- ・ 住民が関わって行政に反映されれば、積極的に参加するようになるだろう。そのようなシステムどのように作るか。

●まとめ

- ・ 意見対立の解消、合意の仕組み (グループホーム)
- ・ もっと身近な地域ごとの制度 (小さなサークル前提に)
- ・ 町会制度のあり方

9 班

地域安全

●地震対策

- ・ 地震対策は？

●犯罪

- ・ 新宿駅における薬物（シンナー、麻薬）の販売について

●人と人の安全

- ・ 人の目・輪が一番有効
- ・ 長く地域に住んでいる人とそうでない人の融合できる方法を考えたい。
- ・ 多文化ゆえに考えられる安全への懸念材料

多文化共生

●表面的なものではなくどろどろしている。

- ・ 「多文化共生」問題について。
- ・ 「外国籍住民」という言葉について。
- ・ 共生のための具体的動きはあったのか？
- ・ 新宿にとって必要。

●生活様式の違いが問題

- ・ 外国人の生活を日本文化や生活方式の違いをどうするか。
- ・ お互いの歴史を学ぶ。

●文化の違いをどうするか

- ・ 文化を知る。
- ・ アジア系ではなくそれ以外の国の人々と交流をもっと深めたい。
- ・ 新宿から文化の発信地になるように。

コミュニティ

●場所

- ・ 図書館劇場 新宿に都庁があるのだからもっと中心に新宿駅付近に
- ・ 集える場所

●人

- ・ 近所、地域の人とコミュニケーション不足
- ・ 青少年と高齢者を交えたコミュニティー活動
- ・ 一時的な区民も巻き込めるように
- ・ うまく新陳代謝をしていくべき

●精神的コラボレーション

- ・ 目的があるのに人集めに励んでいる

協働・参画

- 具体的にまだ分からない
- 官指導から民への移行
 - ・ 地域と人と官の協力なのにいつも官が方向付けする。
 - ・ 民と官（区側）との力の関係（意見と指導等）
- 区民会議が見本になるように
 - ・ 区民会議のように区役所からの一方的報告でなく協力を・・・。
- 区職員は区民の中から

自治制度

- 自分たちの問題として考える
 - ・ みんなが興味を持てる仕組みは何か？
 - ・ 民間のオブザーバーも加えた自治制度の改良。
 - ・ 相互扶助・お互い様の仕組み
- 区職員は区民で
 - ・ 危機管理等を考えると職員は区民に！
- 税金は
 - ・ 地方分権としても新宿区の使える税金少ないので収入を増やしたい。
- 小さな区政に
 - ・ 10年後には少子化して人口が減少するので小さな区政を目指す。